

雪国にしては珍しく週末金土日と三日続きの晴れ間の土曜日いそいそと森林公園に急いだ。

冬は、広葉樹は葉を落とし樹木の樹形(展枝)の姿がはっきりとします。何よりも冬芽が観察できます。冬芽はみんな春を待って、訪れる度ごとにちょっとだけ膨らみを増していきます。そして針葉樹は今が見どころです、何故って周りの広葉樹が葉を落として良く見通すことができるからです。巨木針葉樹の全体像が見えます、辺り一面雪の白の中、唯一色を見せる針葉樹の葉。

その**緑葉の色**を楽しむことができます。日本の伝統色の中のどんな色を感じることができるでしょうか。森林公園で見た「**葉**」の幾つかを紹介しますね。

01 コメツガ(学名: *Tsuga diversifolia* マツ科ツガ属) の葉

葉は、小枝左右に一見長短不揃いに付き、葉の表は**濃緑色**、裏面**淡緑色**



コメツガの葉表 ss2258



コメツガの葉裏気孔 ss2260

※ 表記の ss は縮小写真の表示 数字は撮影番号です(後でデータ確認できるように)

02 トドマツ(学名: *Abies sachalinensis* マツ科モミ属)の葉

葉は、らせん状に付き、葉の表は青みを帯びた**緑色**、裏面は気孔が白く



トドマツの葉表 ss2208



トドマツの葉裏 ss2222

03 ドイツウヒ(学名: *Picea abies* マツ科トウヒ属)

葉は、蒲鉾型に付き、葉の表は**濃緑色**、ネット検索では成長すると**深緑色**、4面に気孔線があるそうだがわからなかった。次回じっくりと観察しよう。



ドイツウヒの葉 ss2223

04 サワラ(学名: *Chamaecyparis pisifera* ヒノキ科ヒノキ属)

葉は、鱗状に付き、葉の表は**濃緑色**、裏は**淡緑色**で X 字型 or 蝶羽型の白の気孔帯がある。



サワラ葉表 ss2253



サワラ葉裏 ss2217

05 ヒノキ(学名: *Chamaecyparis obtusa* ヒノキ科ヒノキ属)

葉は、鱗状に付き、葉の表は**濃緑色**、裏は**淡緑色**で Y 字型の白の気孔帯がある。



ヒノキ葉表 ss2301



ヒノキ葉裏 ss2303

06 ヒノキアスナロ (ヒバ) (学名: *Thujopsis dolabrata* var. *hondae* ヒノキ科アスナロ属)

葉は、鱗状に付き、葉の表は**濃緑色**、裏は**淡緑色**でハの字型(並の字にも感じた)の白の気孔帯がある。
現地で、葉裏を見るときははっきりと大きく観察でき、模様としてもとても美しい、



ヒノキアスナロ葉表 ss2282



ヒノキアスナロ葉裏 ss2284

以上、簡略的に紹介した色について、簡単に(濃緑色、深緑色、緑色、淡緑色)と表しましたが、現地で見ると色の世界は奥深いものがあります。

濃緑色はエナメルを塗ったような艶がある様、深緑は森や樹の生い茂った暗を連想する色、淡緑色はうすい緑か、ネットで伝統色のイロハを見ては悩み、書籍「日本の伝統色」を見ては悩む。それ程自然は美しい。